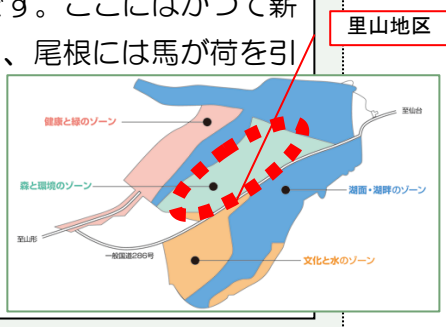
2015年1月24日発行

みちのく森の楽校だより　第10回

みちのく公園「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100 年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という**仙台市の水源を涵養するかけがえのない森**であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、**人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化**を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



1月24日（土）晴れ　　新年の活動！

森の楽校の第10回は、1月の末でした。新年の挨拶をしたら、さっそく里山へ！年末からまったく雪もなく、冬らしさがありません。割りと暖かな日でした。

活動では、あかまつだいらでのデッキづくりを進めています。材料となるスギ材をボランティアが運搬し、みんなでせっせと皮剥きです。梁の組み立ても始まりましたよ！

仙台雪菜の収穫！

小野分校裏の小さな畑では、冬野菜として白菜と仙台雪菜を育てています。あまり大きくなっていませんが、枯れた色の中、緑が鮮やかです。

「仙台雪菜」は、名のとおり雪の降る時期に寒さに耐え、縮れた濃緑の葉っぱにゆったりと旨味を蓄えた野菜。冬場が旬で、耐寒のため自らを縮めて糖分を蓄え変身します。

仙台雪菜は宮城の名産、縮れた濃緑の葉っぱに旨味を蓄えた野菜、旨みに加えた独特のほろ苦さは、大人の味であり、かつ春待つ宮城県人の味であると言われています！

という訳で、里山に入る前に、仙台雪菜の収穫をしました。収穫した雪菜は、根っこごとお汁に入れていただきました。大人の味がしたかな？

白菜　　仙台雪菜

ハンモック

スギの皮剥きにあきた子どもたちは、季節に関係なくハンモック遊びをしています。

ここで豆知識。ハンモックって何？

かつては船舶の乗組員の寝床として広く用いられ、特に軍艦の寝床として多く用いられたそうです。

ハンモックが船舶内での寝床として便利だった理由は、ハンモックは船の左右の運動と同調して動くので、寝ている間に床に落ちる危険がないため。特に帆船が主流だった時代には、帆船は風向きによっては船体が斜めに傾いたまま進むため、常に船内の床が左右のどちらかに傾いている時間が非常に多かった。このため、寝床の水平を保つために必要だったんですって。

スギの皮剥き

デッキの材料は、里山でボランティアが伐採したスギ。柱や梁に太さが直径 15 ㎝程度のものを使います。まずはひたすら皮剥き。伐採した樹木は、生木まま放っておくといずれ腐ってしまいます。

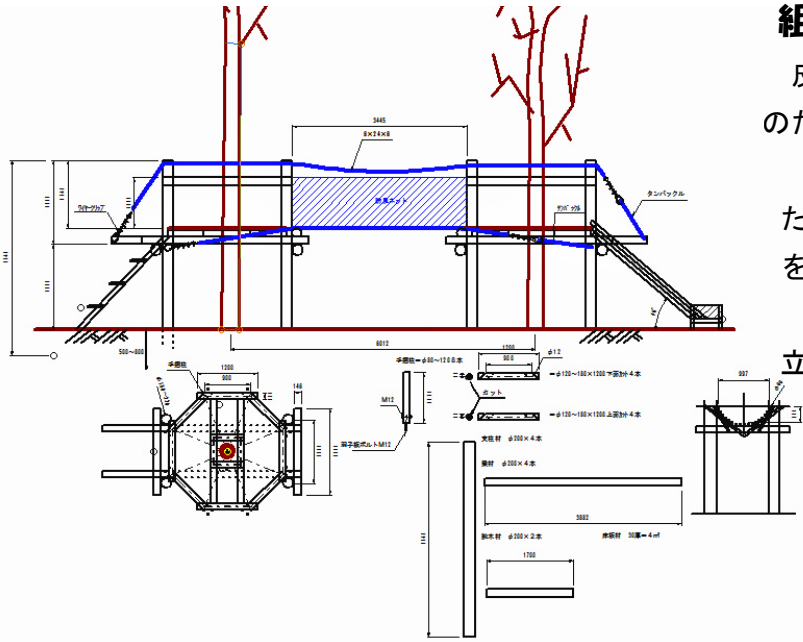
が、この時期、冬期間は、木と皮の間の水分がなくなり、皮が剥きにくいのです。でも、きれいに剥けたらうれしいものです！

アズマネザサの刈りとり

かつての「あかまつだいら」はアズマネザサがびっしり生えていて、入り込むこともできませんでした。それをボランティアが刈り払いをして、今の状態にしたのです！

アズマネザサは関東地方ではもっとも普通に見られるササの仲間。高さは 3m～4m、直径は約 2cm になります。

周囲の斜面には、今でもアズマネザサが生えていて、ヤマツツジなどによくないので、時間があれば、少しずつ刈って行きます。



組み立て

皮を剥いて防腐剤を塗ったスギ材を使って、デッキのための構造体を作っています。

４本の柱を建て込み、八角形の桁を組み立てました。この上に、予めボランティアが挽いておいた板を載せて固定すると、デッキになります。

今は危険のない手が届く高さで作業をして、組み立て後に上に上げる予定です。

第 11 回の会員活動は２月 28 日（土）、次年度の会員を募集します。